# 終戦80年と私たちの役割

－知る・考える・つなぐ
今できる平和への一歩－

今年は、第二次世界大戦の終戦から80年
世界では戦争や武力紛争が絶えず、今この時も苦しむ人が大勢います
戦争は遠い昔のこと、遠い世界のことではありません

これから、戦争を知らない世代が増えていく中で、
記憶を風化させず、平和の尊さを
次の世代に語り伝えていかなければなりません

私たちにできることは[知ること 考えること つなぐこと]
いま、私たち一人ひとりにできる行動を起こしませんか
同じ悲しみを二度と繰り返さないために

「ムッちゃん平和像」(1983年８月 平和市民公園わんぱく広場に建立)

## 知る

昭和20(1945)年３月、大分市は初めてアメリカ軍による空襲を受け、海軍航空隊の基地や軍事施設、日豊・久大・豊肥本線の鉄道などが空襲の標的となりました。その後も何度も空襲を受け、特に７月16日夜半からの空襲では、火災を起こすことを目的につくられた焼夷(しょうい)弾が約6,000発も落とされました。市の中心部は焼き尽くされ、その惨状は「大分駅から海が見えた」と言われるほどでした。

空襲は８月10日まで連日のように行われ、市内の全戸数の４分の１が失われました。総務省の記録によると、終戦までの22回にわたる空襲で一万発を超える爆弾が落とされ、死者177人、負傷者は270人にものぼったとされています。

「焼け野原となった終戦直後の大分市中心部」(1945年)【大分合同新聞社提供】

### 体験記

「大分焼夷弾攻撃に依(よ)り
姉と娘二人遭難」
(姫野全生)

『空襲のサイレンに目覚め飛び起きると生後七か月の長男を抱え畑の中の防空壕(ごう)へと駆け込んだ。まもなく西の空が照明弾で真昼のように明るくなる。私は恐る恐る壕外に出て見ると西の空はバチバチと中心街は真紅に燃え上り…… 大分駅に着くと辺り一面焼け野原に私は驚いた。長浜町迄(まで)二粁(キロメートル)を硝煙(しょうえん)に咽(むせ)びながら、現場へと急いだ。長浜の姉の家は跡形もなく焼け崩れ、人影はなく私は茫(ぼう)然と立ちつくした。 …… 深夜から夜明けまで助けを呼ぶ悲鳴にも火勢に妨げられ手の施しようもなく鎮火を待って助け出した時には既に三人共無残な姿になってしまい残念でなりません。』

(歴史資料館所蔵)

### ◎終戦後のあゆみ

食糧難などの苦しい生活の中、空襲で焼き尽くされた市街地の復興が進められました。昭和21(1946)年の特別都市計画法の制定後、幅員36mの中央通りや昭和通りといった街路のほか、若草公園やジャングル公園などの公園が整備されました。昭和30(1955)年には、ほとんど新しい街並みへと生まれ変わっていきました。

### ◎大分市平和都市宣言

昭和59(1984)年12月24日に、核兵器の廃絶と世界の恒久平和を願い、平和都市宣言を行いました。

平和都市宣言記念碑

**【大分市平和都市宣言全文】**

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

しかるに、近年、核軍備の拡張は依然として続けられ、世界平和と人類の生存に深刻な脅威をもたらしている。我が国は世界最初の核被爆国であり、広島、長崎のあの惨禍を再び繰り返さないように、核兵器の恐ろしさ、核兵器の廃絶を全世界の人々に訴え続けていかなければならない。

大分市は、日本国憲法に掲げられている恒久平和の理念に基づき、非核三原則を守り、大分市民の平和と安全のため全力を尽くすことを誓い、ここに「平和都市」とすることを宣言する。

## 展示で知る 考える

### 歴史資料館夏季展示
### 「大分の戦争と平和」

戦時下の状況や終戦後平和が訪れ変化していく人々の日常を伝える実物資料、写真などを展示します。

**期間** ９月28日(日)まで 午前９時～午後５時
(入館は午後４時30分まで)

**会場** 歴史資料館(国分)

**問** ☎549-0880

戦後GHQから出された
教育方針に関する指令

モンゴルに抑留された
元日本兵のコート

### ヒューレおおいた８月特別展示
### 「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」展

原爆が投下された後の広島・長崎の様子を写した写真などのパネルを展示します。

**期間** ８月６日(水)～９月２日(火) 午前９時～午後６時
(最終日は正午まで)

**会場** 人権啓発センター(ヒューレおおいた)
〈J:COM ホルトホール大分 1階〉

**問** ☎576-7593

## つなぐ

**インタビュー**

７年度市立小中学校児童生徒平和弁論大会
「中学校の部」 優秀賞 黒田 潤さん

昨年の夏、戦争を経験された方に話を聞く機会があり「戦争はなぜあるのか、ただ反対するのではなく、よく考えることが大事」と伺ったことから、平和を実現するということは理想を掲げるだけではなく、現実との間で折り合いを付けていくことで、段階的に平和をつくっていくことだと考えるようになりました。

私たちは日頃から世界のニュース、これまで地球上で起きてきた歴史、そして一人ひとりが大切にしている考え方や価値観、文化、これらすべてにもっと目を向ける必要があります。私はこれからも学び続け、この世界が抱えるさまざまな課題に対して、理想と現実の双方に目を向けながら、多くの人との対話を積み、考え方を磨き、自分に何ができるのか探究していこうと思っています。

弁論の全文はこちらからご覧いただけます▶

### 平和を祈念し、黙とうをささげましょう

**日時** ８月６日(水) 午前８時15分
広島の原爆死没者のめい福と世界恒久平和の実現を祈念する黙とう

８月９日(土) 午前11時２分
長崎の原爆死没者のめい福と世界恒久平和の実現を祈念する黙とう

８月15日(金) 正午
戦没者を追悼し、平和を祈念する黙とう

**問** 総務課 ☎537-5602